

キャリア教育入門

香川大学 大学教育開発センター
葛城浩一

0. 今日の構成

前半

1. 「キャリア」とは何か？
2. キャリア教育が必要とされてきた背景
3. 大学におけるキャリア教育の位置づけ
4. 香川大学におけるキャリア教育

後半

5. グループワーク

1. 「キャリア」とは何か？



「キャリア」の持つイメージ

→職業的なイメージが強い。

ホール(1976)の定義

- ①昇進・昇格の累積としてのキャリア
 - ②専門職業としてのキャリア
 - ③生涯を通した一連の仕事としてのキャリア
 - ④生涯を通じた様々な役割経験としてのキャリア
- 極めて多義的で曖昧な言葉

1. 「キャリア」とは何か？



中央教育審議会答申(1999)

「初等中等教育と高等教育との接続について」

「学校と社会及び学校間の円滑な接続を図るためのキャリア教育(望ましい職業観・勤労観及び職業に関する知識や技能を身に付けさせるとともに、自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てる教育)を小学校段階から発達段階に応じて実施する必要がある。キャリア教育の実施にあたっては、家庭・地域と連携し、体験的な学習を重視するとともに、各学校ごとに目標を設定し、教育課程に位置付けて計画的に行う必要がある。」

1. 「キャリア」とは何か？



「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」(2004年)

- ・「キャリア」を「個々人が生涯にわたって遂行する様々な立場や役割の連鎖及びその過程における自己と働くこととの関係付けや価値付けの累積」としてとらえている。
- ・「キャリア教育」を、「キャリア」概念に基づき「児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれに、ふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育」ととらえ端的には、「児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てる教育」とした。

1. 「キャリア」とは何か？



職業指導・進路指導とキャリア教育の違い(松高、2003)

- ①「人生や生涯」とより長い「期間」を視野に入れるべき点を強調している。
- ②「知識や能力」といったスキル面より、「勤労観・職業観」といった意識面の育成を強調している。
- ③進路選択・就職時期での「出口指導」ではなく、「入学時から継続して」取り組むべき点を強調している。
- ④補完的な課外活動的位置付けではなく、「学校での教育活動全体」において取り組むべき点を強調している。

2. キャリア支援が必要とされてきた背景



香川大学
教育・学生支援機構

大学審議会答申(2000)

「グローバル化時代に求められる高等教育の在り方」

「学生が将来への目的意識を明確に持てるよう、職業観を涵養し、職業に関する知識・技能を身に付けさせ、自己の個性を理解した上で主体的に進路を選択できる能力・態度を育成する教育(キャリア教育)を大学の教育課程全体の中に位置付けて実施していく必要がある。」

2. キャリア支援が必要とされてきた背景



香川大学
教育・学生支援機構

・出口の問題

④ 多様な進路選択とキャリア教育

「学生が望む人生や生き方をするにはどうしたらよいか」といったキャリア意識の醸成

+

「学習への動機付けや基礎力の養成」といった効果

⑤ 受験競争の緩和に伴う多様な学生への対応

・+α

⑥ 競争的外部資金

3. 大学におけるキャリア教育の位置づけ



「キャリア支援」のポイント

- ①「入学時から継続して」
- ②「補完的な課外活動的位置付けではなく」
- ③「教育活動全体において」

3. 大学におけるキャリア教育の位置づけ



低学年からのキャリア支援・キャリア教育への取り組み状況

		既に 取り組んでいる	今後取り組む 予定である	今のところ、 取り組む予定はない
全体		64.2	20.8	15.0
設置 形態	国立、公立	53.1	18.8	28.1
	私立	67.4	21.1	11.6
設立 年度	1949年以前	64.7	19.3	16.0
	1950－79年	69.8	16.3	14.0
	1980年以降	58.2	26.5	15.3
学生 数	2000人未満	53.3	22.2	24.4
	2000－4999人	67.9	24.7	7.4
	5000－9999人	74.5	18.2	7.3
	10000人以上	81.8	9.1	9.1

出所: 上西充子、2006、「大学におけるキャリア支援・キャリア教育に関する調査報告書」。

3. 大学におけるキャリア教育の位置づけ



資料2. キャリア関連科目の名称

平成 17 年度「学生の職業観形成に関わる授業科目の例（36 大学）」（「就職問題懇談会」）

A タイプ（講義中心授業／多様な学内外講師が登場するもの）

「キャリア形成入門」「現代の産業・社会事情」「現代社会論」「職業とキャリア開発」
 「私にとって仕事とは」「仕事と人生」「ライフスタイルと職業」「特殊講義（日経・経営講座）」
 「生きがい論」「ライフスタイルデザイン」「総合講座」「ビジネス講座」「仕事と人生」
 「仕事と人生」「キャリア研究」

B タイプ（自己学習・相互学習にウエイトがあり、ひとりの講師が運営すると見られるもの）

「キャリアデザイン」「就職」「職業と進路」「現代文明論・現代社会理解」「キャリアデザイン」
 「職業意識とキャリア形成」「進路を考える」「クリエイティブキャリア論」「キャリア教育」
 「キャリアデザインⅠ（働くこと）」「キャリア研究」「仕事と人生」「プレゼンテーション」
 「職業教育（演習）」「職業の心理」「就職と社会」「ビジネス実務演習」
 「専門基礎セミナー（エンジニア総合学習）」

A・B タイプと見られるもの／形態不明なもの

「キャリアデザイン入門」「女性とキャリア」「情報と職業」「働く女性」

出所：社団法人国立大学協会 教育・学生委員会、2005、「大学におけるキャリア教育のあり方」

3. 大学におけるキャリア教育の位置づけ



資料3. キャリア関連科目の授業内容分類

科目分類	内容領域
①大学生生活導入系	A) 大学生生活適応支援 B) スタディスキル
②社会理解系	C) 社会マナー D) 働くことの意味 E) 企業・業界理解 F) インターンシップ
③キャリア開発系	G) 自己理解 H) キャリアデザイン
④就職対策系	I) 就職活動対策 J) 一般知識向上

出所：松高政、2003、「大学におけるキャリア教育の現状とその効果に関する実証的研究」。

3. 大学におけるキャリア教育の位置づけ



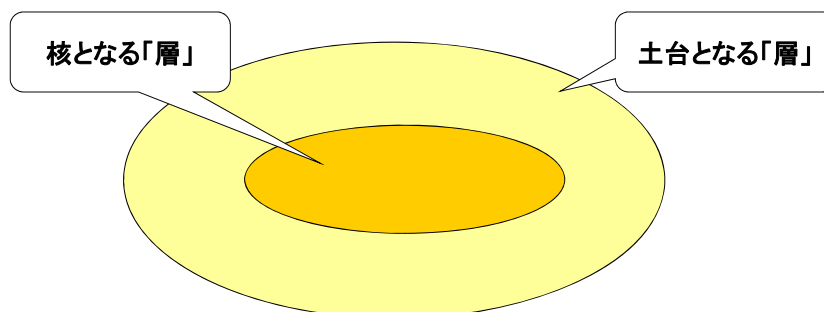
児美川(2007)

「学校におけるキャリア教育は、大きく括れば、二層構造をなすはずだと考えている。広義には、学校における教育活動の全体を通じて、「キャリア教育としての視点」が貫かれる必要があるという、カリキュラム上の土台となる「層」がある。…これに対して、狭義には、学校の教育課程のなかでは、とりわけ「生き方・働き方」の学習という点に焦点をあてた教育活動が取り組まれる必要がある。言ってみれば、広い意味でカリキュラム上の土台となる「層」のうえに重ねられるべき、キャリア教育の核となる「層」である。

3. 大学におけるキャリア教育の位置づけ



- ・キャリア教育の核となる「層」…展開されているが、、、
- ・キャリア教育の土台となる「層」…留意されていない



4. 香川大学におけるキャリア教育



- ・2005年度:1科目開講(特別主題科目)

現代GP採択

- ・2006年度:1科目開講(特別主題科目)

- ・2007年度:9科目開講

→特別主題科目4科目＋教養ゼミナール2科目

→高学年向け教養科目3科目

- ・2008年度:9科目開講

→特別主題科目5科目＋教養ゼミナール2科目

→高学年向け教養科目2科目

4. 香川大学におけるキャリア教育



- ・特別主題科目「人生とキャリア」(平成20年度)

1年次前期

→「キャリア・デザイン入門」

1年次後期

→「キャリア・デザイン概論」

→「女性とキャリア」

→「キャリア・デザイナー 自己理解とコミュニケーション」

1年次集中

→「コミュニケーション基礎トレーニング」

4. 香川大学におけるキャリア教育



・2006年度:1科目(88名) 受講率7%



・2007年度:4科目(399名) 受講率31%(のべ)



・2008年度:4科目(579名) 受講率45%(のべ)

* 大幅な受講率の拡大！

4. 香川大学におけるキャリア教育



・高学年向け教養科目

全学共通科目を履修し終えた学生や専門の勉強を始めた学生を対象とした科目。

・「キャリア・デザイン実践講座」

職業人として特に重要とされているコアスキルの育成を短期間で集中的に行う講座。

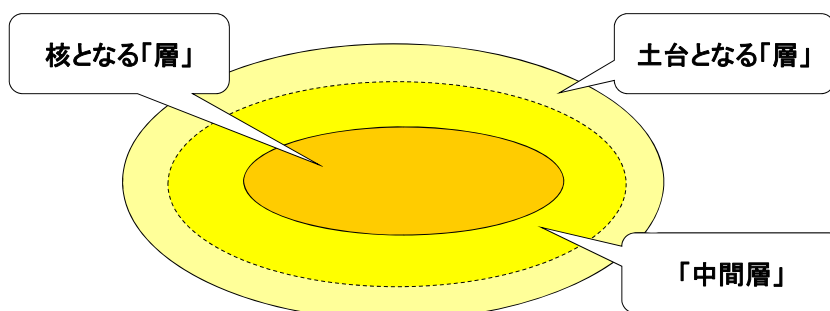
→「問題発見・解決の思考法」

→「ビジネスプランの作成」

4. 香川大学におけるキャリア教育



- ・キャリア教育の核となる「層」・・・展開されているが、、、
- ・キャリア教育の土台となる「層」・・・留意されていない
- ・キャリア教育の「中間層」の開拓



4. 香川大学におけるキャリア教育



2007年度

- ・専門教育へのアプローチ
 - 「現代GP推奨科目」(現代GPからの経費的支援)
 - 「キャリア支援センター推奨科目」

2008年度

- ・全学共通科目へのアプローチ
 - キャリア教育の視点で、既存の全学共通科目を再構造化する試み

4. 香川大学におけるキャリア教育



・選択科目であることの限界

「キャリア教育」に対するニーズとキャリア意識との関連

		ニーズあり	ニーズなし	ニーズなし			
				進路あり	興味関心なし	考えたくない	必要性なし
全体	具体的展望	0.048	-0.043	0.401 ***	-0.179 **	-0.424 ***	-0.014
	向上心	0.069	-0.064 *	0.185	-0.193 ***	-0.423 ***	-0.248
教育系	具体的展望	0.242	0.345	0.674 *	0.232	-0.451	-0.035
	向上心	0.359	0.330	0.566	0.082	-0.385	-0.221
社会科学系	具体的展望	-0.065	-0.150	0.384 *	-0.356 *	-0.369	-0.036
	向上心	-0.010	-0.073	0.178	-0.261	-0.417 *	-0.079
自然科学系	具体的展望	-0.092	-0.279	-0.304	-0.358 *	-0.533 *	-0.197
	向上心	-0.034	-0.326 **	-0.341	-0.341 *	-0.379	-0.398
医療系	具体的展望	0.527	0.621	0.795	0.518	—	0.550
	向上心	0.094	0.322	0.284	0.234	—	-0.492

出所: 葛城浩一、2007、「誰がキャリア教育を受けるのか？」(第29回大学教育学会発表レジュメ)。

4. 香川大学におけるキャリア教育



・選択科目であることの限界

→キャリア意識の低い学生は、キャリア教育にニーズを感じていないため、受講しない！

→初年次教育としての捉え直しが必要！

・「中間層」の開拓

→キャリア教育としての視点を持った授業の裾野を広げるための継続的な努力が必要！

休憩(10分)



5. グループワーク

- ・アイスブレイキング
- ・自分とキャリア教育との関係性を絡めながら1分で！

ワーク1.

みなさんの大学で行われている「キャリア教育」はどのような点に問題があると思いますか？
3つ以上挙げてみて下さい。

制限時間5分

5. グループワーク



ワーク2.

みなさんは教養教育のカリキュラムの抜本的な改革を行うワーキンググループのメンバーです。

「キャリア教育」の要素を盛り込みつつ、教養教育における、理想的、かつ現実的な、「キャリア教育」の位置付けを提示して下さい。

制限時間20分

5. グループワーク



ワーク2の進め方

- ・ワーク1で挙げられた問題点の中から、改革に反映させる問題点として、2つないし3つを選択する。
- ・それらの問題点を考慮した、教養教育のカリキュラム改革案を考える。
- ・改革案がまとまったら、模造紙にまとめる。



プレゼン